

PTA会報

No.66 2017.3

# 嵩山

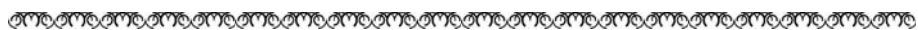


松江東高



## 目次

|               |    |
|---------------|----|
| ○ P T A 副会長挨拶 | 1  |
| ○ 教頭挨拶        | 2  |
| ○ 卒業生に贈る言葉    | 3  |
| ○ 卒業生からの言葉    | 8  |
| ○ 後期部活動成績一覧   | 10 |
| ○ P T A 会務報告  | 15 |
| ○ 編集後記        | 16 |





PTA副会長 大島 正也

PTA副会長の大島と申します。平素より皆様にはPTA活動にご理解とご協力を賜りまして有難うございます。御礼を申し上げます。

今年度も様々な社会情勢の中、激動の一年であつたと感じております。四月に起きた熊本地震では甚大な被害があり、その復興においては現在でも影響を残している現状にあるようです。また十月には鳥取県中部地震により、倉吉を中心とした地域において被害の報告もありました。これらの震災にて被害に遭われました方々、また関係者の皆様にお見舞いを申し上げます。鳥取県中部地震におきましては、近い地域での災害にその重大性や被害の様子などに考えさせられる事が多かったのではないのでしょうか。近年の自然環境の変化に伴う現象がこれからも続いていくように感じます。この事は、私どもがこれから子供たちの未来に向けて何が出来るのか、また当事者である子供たちが何を感じて行動していくのかを問われ続けられているようにも感じています。

さて、私どもの置かれております学校の環境につきましては平成二十九年度において、高校入試要領の変更があります。校区以外の生徒に対する

受け入れ枠の拡大で、県内各校の状況などにも変化が現われてくること予想されます。そのような状況の中、松江東高におかれましては永瀬校長先生の提唱されます『松江東高グランドデザイン』に基づき、その重点目標であります三つの力「人とつながって生きる力」「自己の未来を切り拓いていく力」「地域社会の未来と関わる力」を育てるキャリア教育の実践を行って頂いております。また生徒たちが自らのライフデザインの実現を目指す総合的な力を持つため、その実現に向けて師弟同行で挑戦し続けて頂いております。私ども保護者も先生と共に、子供と同じ目線を持ちながら、その子の描くライフデザインの実現を叶えていく歩みが大切であると思えます。PTA活動の一つ一つがその実現に結びついていく事が出来ればと願っております。

平成二十八年にはリオ五輪が開催され、日本選手団は過去最高のメダル獲得を記録し、更に若手選手の台頭による活躍もクローズアップされた大会であつたように思います。この大会におきましては、そのような、まさしく同世代の選手たちに触発され生徒一人ひとりが自らの目標を持ち、多

くの挑戦を行う良い契機であつたのではないかと感じています。東高におきましては体育部、文化部問わず、また部活動においてのみではなく、生徒一人一人が精一杯に取り組む姿勢を喚起する、そのような五輪ではなかったかと振り返ります。近い将来、東高の生徒から五輪選手が生まれることを期待することももちろんありますが、様々な競技における五輪選手の姿勢を自分へのエールとして捉え、「自分らしいライフデザインの実現」へ繋げて頂ければ良いと思えます。そのような夢を持ち、自己実現を目指す生徒で溢れる東高を私どもPTAは支えていかなければならないとも考えます。そのためにこれからも先生方と一緒に私ども保護者も精一杯頑張っていければ良いと思えます。

最後になりますが、これまでPTA活動におきまして総会、講演会など行っておりますが、保護者の皆様には積極的にご参加を頂いております。大変感謝申し上げます。今後ともPTA活動にご理解を賜りまして、子供たちの輝かしい未来へ繋がりますように、引き続きましてご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 体験と聴く力

教頭 江川 数司

東高三十二期の生徒・保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今やAI（人工知能）によって近い将来、現在ある仕事の半分がなくなると言われる世の中となりました。「ロボットは東大に入れるか」をテーマに開発を進められた「東ロボくん」プロジェクトが注目を集めたのは、皆様ご存じのとおりです。この話題は今年度二学期終業式で永瀬校長も取り上げられ、お話しになりました。ベネッセのセンター試験模試と代ゼミの東大模試を受験したAIが一部の科目を除いて、総合的には東大合格レベルには至らなかったという顛末です。

このプロジェクトリーダーを務めた国立情報学研究所の新井紀子教授が指摘したのがAIの「読解力」の弱さでした。AIは「意味を深く理解しなければいけないこと」を聞かれると困るというものです。現段階のAIは世界に広がったネット環境の中で、膨大な知識を記憶し、その知識と知識の関係を構築することで成長させていきます。記憶と関係性のインプットとアウトプットの量では人間はかきまかせませんが、意味の深い理解：たとえば「親子の愛情」とか「生きていく意味」など

のように、人間が感覚を研ぎ澄まして考えることを必要とする、あるいは個人の感情によってとらえ方が異なるような意味の理解ができません。

しかし、東大レベルに届かなかったとはいえ、総合偏差六〇近くのこのAIに、逆算すると八割の高校生の学力が下回っているという現状は問題です。これを分析するために、新井教授らが始めたのが中高生向けの読解力調査でした。そして、この調査を通じて教科書の文章を読めていない生徒が実に多いということがわかってきました。文の意味を理解せずに文中のキーワードだけを把握し、それを組み合わせ、なんとかかつじつま合わせをしている。まさに、AIの学習法と同じことをしている子どもたちが多いと言うのです。

私はこのニュースに接して、二つの学びの要素の重要性を感じとりました。一つは「体験」、もう一つは「聴く力」です。

人間は体験を通じて、言葉に感覚や感情が絡みつき、言葉一つから想像力や創造性のかげらを生むようになります。「楽しい」、「辛い」の意味、そして「幸せ」の意味も人それぞれの体験や経験を背景に、個性豊かで多様性のある意味を持つ言

葉となります。このような体験を通じた学びこそが深い理解であり、「読解力」の向上につながるのではないのでしょうか。

また、情報洪水の現代社会にあつては自分にとって最低限必要なものキーワードだけを選択していく力だけが鍛えられていきます。子どもたちの学習傾向がそのような形式に向かってしまうのはむしろ仕方のないことかも知れません。スマートフォン漬けの日常の中で、可視化された膨大な情報から、自分の興味関心につながりそうなものだけを取り出していく……。ここで私たちは、いったん視覚からの情報を制限し、耳から入る情報に集中する時間を取り戻すことが必要ではないでしょうか。最後まで全精力を傾けて人の話を聴き、その文脈を理解する。プレゼンテーションソフトを使わない講演会であつても面白いと感じることのできた、また、ラジオにかじりついて世の中を知ろうとした、かつての時代のように。そのような「聴く力」を鍛える訓練が大切であり、意識して取り組む必要があるように思います。

二十一世紀を担う卒業生の皆様に、大人世代からの提言を心に留めおいていただければ幸いです。さらなる「自立への道程」を元氣よく歩んでいかれることを願っています。

# 卒業生に贈る言葉

## 自分に厳しく 他人に優しく



校長

永瀬 嘉之

題名の「自分に厳しく 他人に優しく」は、卒業生に贈る言葉としてこれまでずっと使ってきた言葉です。クラス担任をした生徒にも、部活動で関わった生徒にも、何かのきっかけで話をした生徒にもすべてこの言葉を贈ってきました。今回は、卒業生全員にこの言葉を贈りたいと思います。

「自分に厳しく」とは文字通りではありませんが、自分を冷静に見る目を持つてほしいということです。第三者的に俯瞰した視点を持つてほしいということです。本当に難しい事だと思えますが、高校生までの甘い生ぬるい状態から大人として厳しい社会を生き抜いて行くためにぜひこの機会に身に付けてほしい力です。具体的には、言葉を口にする時、何か行動する時にその言動がその場に合っているのか、それによって誰かを傷つけたり、不快にさせていないかなど、少し考えてみてください。今までなら許されていた言動もこれからはあなた自身の評価に関わってきます。ちよつと考える余裕を持ちましょう。

「他人に優しく」もちろん文字通りではありませんが、常に自分のこととして自分が嫌なことは他人にしない、してもらってうれいことをする。この姿勢で表面的な優しさではなく、内面からの優しさを求めたいと思います。他人に優しくでき

る人は必ず周りから優しくされます。

社会では一人では生きて行けません。多くの他人に生かされて行くものです。みなさんの「自立への道程」はまだまだこれからも続きます。この「自分に厳しく 他人に優しく」の姿勢を持つてしっかりと歩んでください。

卒業おめでとう！



31R担任

多賀 秀哉

三年生のみなさんご卒業おめでとうございます。みなさんは、高校三年間でどのような経験をし、それらの経験を今どのように振り返りますか？

私は今年初めて三年生の担任をさせてもらって、みなさんと日々生活をともにする中で、自分が高校生たっだ頃の事を思い返す機会が多くありました。そして思い出すことと言えば、辛い経験や、悔しい経験や、後悔している経験がほとんどでした。しかし、私の中でこれらの経験やその記憶は決して悲観するものではありません。なぜかという、高校を卒業してから現在に至るまでの中で、高校生の頃に経験した、一見ネガティブな経験のおかげで成長できたことや、成功できたことが多々あるからです。例えば、あまり大きい声で言えませんが、私は高校生の頃全く勉強しませんでした。そのせいで、三年生の時は受験で思うような結果が出ず、一年浪人する決意をしました。これは私にとって、後悔している経験です。ですが、この経験を通して「やるべき時にはやるべき事をしなければならぬ」ということを強く学ぶ事ができました。現在、教員という職に就けているのは、

この後悔している経験をその後の人生で活かすことができたからだと思います。現在の私は、高校生の頃の私、大学生だった頃の私、大学院生だった頃の私、社会人になった頃の私が経験したことがあってこそだと考えています。

高校を卒業することは一つの区切りではあっても、決してゴールではありません。みなさんが、高校三年間で経験したことは、良い経験も悪い経験もすべてみなさんの今後の成長の糧になるものですし、ぜひそうして欲しいと思っています。今後のみなさんの益々の成長を期待するばかりです。そして、いつかみなさんの成長した姿が見られることを楽しみにしています。

## 「道」



32R担任

尾原 美香

卒業おめでとうございます。三年前を振り返ると、十五歳のまだ初々しい皆が懐かしく思い出されます。改めて今、目の前の皆を見ると、三年間という時間の重みを感じ、この貴重な時間を、共に歩むことができたこと、大変嬉しく光栄に思います。いつもいっばいの笑顔から、毎日元気をもらっています。本当に感謝しています。素直で明るい皆さんは、三十二期生に関わった人たち全員を、いつもハッピーな気持ちにしていたと思います。そんな皆さんのことを誇りに思います。

まだ十代の若者が、一つ一つ壁を乗り越え、日々成長していく姿には、逆に勇氣や感動をもらいます。悩んだり、転んだりした時、周囲の者は折る

ような気持ちで応援したり、手を差し伸べることはできるとしても、最終的にその困難に立ち向かっていくのはその人自身です。だから、この三年の間に、いろんなことに悩みもがきながらも、最終的には自分自身で乗り越え、またいつものように笑って自分らしく日々を過ごしていく皆さんの姿を見てみると、人の強さや成長を感じたものです。転んでも何度でも起き上がる姿勢は、周囲の者へ勇気を与えるだけでなく、自分の自信となり、これまで経験した嬉しいこと悔しいことその全てが皆さんのこれからの糧となり宝物になることでしょう。

今日また一つ、人生の節目を迎えますが、これからも、まだまだ「道」は続きます。この「道」は他の誰でもない自分一人でしか歩むことのできない「道」ですが、皆さんの周りにはいつも皆さんを思っている人がいます。どこにいても、何をしても、自分の力を信じ、味方でいてくれる人たちがいるからこそ、頑張つて踏ん張れるのだと思います。特に、家族や故郷の人たちというのはそういう存在なのでしょう。これから先も、ここには皆さんのことを誇りに思い、幸せを願う人たちがたくさんいることを、心のどこかに留めながら、それぞれの「道」を進んでほしいと思います。  
It's a lonely road, but you are not alone.  
皆さんの幸せを心から願っています。



## 「人生は航海だ」

さあ、これからだ！



33 R担任

藤原弘晃

卒業おめでとうございます。卒業するみんなとは今年度からの担当でしたのでアツという間の一年間でした。各学期を一年間に見立て、濃い関わりを持ったつもりですが、振り返って見ると反省点ばかりです。どうかお許しを。

人生はよく「航海」に例えられます。何をやっても順調に事が運ぶ順風満帆な風の時もあれば、逆に何をやっても上手くいかず、もがき苦しむ逆風張帆な時化の時もあります。さて、松江東高で過ごした三年間はどうか？

恐らく風も時化も様々なタイミングでそれぞれにあつたことでしょう。そんな中にあつてもみんなはこの三年間の航海を見事に成し遂げました。どんな状況下でも自艇の帆を風に対して的確に立て、(実際には、艇の進行方向と風上の方向が作る角の二等分線上に帆を立てると艇は前進します。)目標を見定め進めていった結果だと思えます。

いよいよ、卒業です。今後新境地で新たな航海が始まります。さあ、これからですよ。まだ見ぬ大海原で、それぞれの大海が始まります。ワクワクしてきますか。ドキドキ胸が高鳴っていますか。しっかりと帆を立て力強くスタートしてください。きつと素晴らしい未来が待っているはずですよ。

最後に、E.Wウィルコックスの「運命の風」という詩を贈り、はなむけの言葉とします。  
ある舟は東に進み

また他の舟は同じ風で西へ進む  
行くべき道を決めるのは

疾風ではなく帆のかけ方である

海の風は運命の風のように

生涯という海路を辿るとき

ゴールを決めるのは風か嵐ではなく

魂の構えだ

## 三十二期生へ贈る言葉

34 R担任

福井有希



ある日、女子生徒(Aさん)が駆け寄ってきて言いました。

「先生は、他人である私たちのことに、どうしてそんなに一生懸命になれるのですか。」咄嗟に私は「みんながかわいからだよ。自分ができるところぐらいは惜しみなくやりたい。」と答えました。するとAさんは「私は将来そんなことをする自信はない。」と、なおも不可解な表情でした。「いつか自ずとそういう風になっているはず。今は自分のためにしっかりと生きて。」と返したと記憶しています。自分の言葉に嘘偽りはなかったと思えます。しかし、何かが足りず、もう少しよい返事ができたのではないかと心につっかかっていたました。

私自身、他人のために生きていくという感覚はないのですが、大人になって仕事に就き、そして親になり、自分が「他者によって生かされている」存在であるということがようやく身を以て分かりました。自分の命は自分だけのものではないと。そしてその存在は紙一重のものであると。声を聞いた記憶もない人々も含めた、あらゆるレベルでの支えがあつて、今の自分があります。みなさんとのかけがえのない時間も、そうして奇跡的に戴

けたのです。今となつては、自分のためだけに頑張ることが一番難しいことだとさえ感じます。

命を大切にするということは自分に与えられた時間を大切にすることだと思っています。二度とはないこの一瞬を後悔のないように過ごしたい。「常に全力で」とも違うと思います。自分を、そして他を大切にするためには？

まっとうに、正直に。ただし、独りよがりにならぬよう、外の世界をよく観ることも忘れずに。そして自分の内なる声によく耳を澄まし、その時のあなたのよさを存分に出す勇気をそれぞれが持てば、きっとよい世界になると信じています。まだ、みんな、何色にも染まることができません。

Aさんにいつか伝えたいと思っていました。Aさんだけでなく、三十二期生みんなに贈る言葉としたいと思います。

## いつまでも笑顔を忘れず



35R担任

大石 猛

卒業おめでとう。あつとこの間の三年間でしたね。35Rのみんなとは三年生の時のほんの一年間のつきあいだったけど、三つの素晴らしいことに出会い、とても充実した一年を過ごさせてもらいました。

その一。35Rは十人十色。本当に色々な人がいて、なかなかまとまらないのでは？と思つていましたが、君たちはその様々な個性を認め合つて、きちんとまとまっていたと思います。人間として素晴らしいことです。

その二。出席率が全校で一位だったこと。年間で99・5%でした。35Rが君たちにとつて居心地のいいクラスだったという証拠ではないでしょうか。

その三。二学期以降、「受験勉強を通じて人間的に更に成長しよう！」と呼びかけてきましたが、君たちは本当に成長してくれました。センター試験直前には、頼もしく感じる人が多くなつて嬉しく思つていました。大変だったけど、君たちは本当によく頑張りました。今の君たちは、何でも前向きに行動できる素敵な大人に、そして立派な社会人になれるだけの能力を身に付けていると思います。

さあよいよ巣立ちの時です。これからも新たな戦いの日々が続いていきます。自分を支えてくれるすべての人に感謝の気持ちを忘れないで、自分を信じてしっかり戦つてください。そして新たな仲間を作ってください。苦しいときも自分を見失わず、笑顔を忘れず頑張ってください。君たちの笑顔には、人を元気にする力があります。私も何度その笑顔から元気をもらったことか。君たちの将来に幸多かれと祈ります。

## 卒業に寄せて



学年主任 36R担任

伊藤 淳史

期待と不安を胸に入學してから三年が経ちました。心身巢立ちのときを迎えました。保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。心よりお祝い

申し上げます。

高校の三年間は、大きく変わる年代です。彼らも友人達と助け合いながら、あるいは競い合いながらお互いに目標に向かって高め合い多くのことを身に付けました。初めはどこか人事に感じられた学習や進路に対する姿勢もいつの頃からか厳しいものへと変わり、大きな決断もできるようになりました。この学年は人数が少ない上に、新たに始めたことも多かったため、負担のかかったこともあったと思います。特に「殻を破る」を合言葉に臨んだ研修旅行や学園祭では、柔軟さや順応性の高さに驚かされることも多くありました。我々にとつても楽しいことばかりではなく、苦しいこともありました。三十二期生の素直さと成長振りに励まされ充実した時間を過ごすことができましたように思っております。

いよいよ次へのステップへ足を踏み出すときがきました。生徒達を待ち受けている現実には、大人達も経験したことのないものかも知れません。しかし、彼らが見せ、我々が魅せられた強いバイタリティーと順応性でどんな困難も乗り越えてくれると期待しております。最後になりましたが、三十二期生の今後の活躍と保護者の皆様のご健康とご多幸を祈り、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 卒業生の皆様へ

31 R 保護者 青山 圭 二

「ご卒業おめでとございます。長いようで「あつ」と言う間に過ぎた三年間。良く学び、良く遊び、部活では勝って喜び、負けて涙した思い出多き日々ではなかったでしょうか。

私は、今年三年部PTA学年委員長を勤めさせていただき有意義な一年を過ごさせてもらいました。特に東雲祭の運動会、競技はもとより、応援合戦はどの組も良くまとまり見ごたえのあるものでした。短時間の練習で一・二年をまとめあげ、やり遂げたことに感銘を受けました。どうかその時の想いを胸に新たな道に進んでください。私も二人の子どもを通し五年間PTAの役をさせてもらいましたが、いよいよ最後だと思つと感慨深いものです。二人とも剣道部に在籍し、全国大会出場を目指し稽古に励んで来ました。残念ながら目標を達成することは出来ませんでした。共にくらばらしい仲間めぐり合うことが出来ました。何よりの宝であり、これからの励みになると信じています。

皆様も、いろいろなことと戦いぬかれ、今日に至つておられると思いますが、決して一人では勝ちぬくことはできなかったと思ひます。その影には、ご両親の暖かいはげましや、東高の先生方のご指導があったからだと思ひます。あらためて感謝の気持ちをお伝えください。

私たち保護者は、これからも皆様を、応援してきます。頑張ってください。

32 R 保護者 野口 朱美

一年生の入学式の日、まるでドラマのような桜の花吹雪に迎えられたのを思い出しました。きつと、あつという間に過ぎてしまふ、大切な三年間が始まるんだと思ひました。

私にとつては、「保護者」と言われるのも最後の、貴重な年月になりました。

市内とは言え、引越して来て間もなかったのに、どうかなと心配するのも無用に、部活や学校生活はどうかと聞くと、いつも「楽しいよ。」との返事が返つてきてほつとしたのを思い出します。

しかし一方で、中学・高校時代は、一生の中でも大きな「喜怒哀楽」、その他のあらゆる感情の嵐の中の真つ只中にある時期でもあり、なかなか本心を素直に表してくれることも少なく、きつと全てを理解できてはいないかもしれませぬ。

でも、いよいよ本当に卒業する時が来ましたね。高校の卒業というのは、卵の殻に守られていた雛が、自分の意志と力で、内側からコツコツと殻を破り、初めはヨタヨタと失敗しながらも、どんどんと力を付け、ついには飛び立っていくという、本当に人生最大の転機です。

私も振り返つて思うことは、どんな経験も無駄はないつてことです。東高での想い出も力にし、自分をしばつておる殻をとりはずし、失敗をおそれず、素晴らしい未来を信じて飛び立ってください！



33 R 保護者 浅野 美和子

四人兄弟の末っ子の卒業がもうすぐです。四人の中で初めての東高進学、四人の中で初めての屋外スポーツ（応援は暑さ寒さとの戦い）、四人の中で初めての関西への進学。親にとつて初めてをたくさん体験させてくれる四番目です。

この原稿を依頼されたのも四人で初めて。何とか断れないか、と思つていたらこの冬初めての大雪。渋滞に巻き込まれないように慌てて仕事場に行つたものの、いざ帰る段になり、車庫に車が入るのかなあ、と不安になりながら雪道を降りしました。すると我が家の前はきれいに雪が積もってありました。ばあさんが教えてくれるには、四番目が「運動のため」雪かきをしてくれたとのこと。こんなことも、四人の中で初めてのことです。

頼まれてもいないのに、自分から雪かきをしてくれる気持ちの育つていくことに、私の育て方がよかつたからではなく、そこに気がつく気持ちを育てていただいた今まで彼女が出会つた仲間たち、指導してくださつた先生方のおかげだと思つていきます。（というところで、この原稿もお礼の気持ちを込め書きました。）

親としては、他の兄弟と一緒にいると、安心なところもあるけれど、でも、ひとりひとりの個性、特性を考えると、「みんなちがつてみんないい。」のだと思ひます。

これから、どんな初めてが待っているのでしょうか。春が楽しみです。



## 羽ばたきの時を迎えて

34 R 保護者 塩 毛 隆 宏

三十二期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。三年間の高校生活は、いかがでしたか？きつとみなさんの心の中には、楽しかったことも辛かったことも、全て宝の山となり心に残っていることでしょう。

みなさんは高等学校を卒業し、進学・就職とそれぞれの新たな道を歩き始めます。卒業後は、高校三年間で築いたことを土台に、努力と熱意をもって自分の選んだ場所で、一步一步『夢』を実現してください。そして、自分も人も大切に生きてください。みなさんのご健闘を陰ながら応援していきます。

最後に、今、大きく羽ばたいていくみなさんに、私の大好きな詩を贈ります。

『青春』

サムエル・ウルマン

青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の有様をいうのだ。

しなやかな体や、紅の唇のことではなく、たくましい意思、豊かな想像力、情熱こそ青春という。

歳を重ねただけで人は老いない。

理想を失う時に初めて老いがくるのだ。

歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に心はしぼむ。

たとえ、七十歳だろうと十六歳だろうと人の胸には驚きと感動と怒り、歓喜がある。

人は信念と共に若く、疑惑と共に老いる。希望ある限り若く、絶望と共に老い朽ちる。

志と勇気と信念を失えば、たとえ二十歳であろうと人は老い込む。

頭を高く上げ希望の波と目標を見失わない限り、

八十歳であろうとも、人は青春の真つただ中にいるのだ。

## 贈る言葉

35 R 保護者 河野 加寿子

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。これからの新しい生活に期待と不安でいっぱいのご様子ですね。初めて親元を離れての生活になる皆さんも多いことと思います。新生活を機にこれまで支えてくださった先生方、ご家族の方々、その他お世話になった皆さんに感謝の気持ちを持っていただきたい、そしてどのような道に進まれても何かを学び続けていただきたいなと思います。私自身、保護者の年齢になって感じることは、もつと若いうちに多くのことに挑戦しておけば良かったということ。もちろん年齢に関係なく学ぶことはできますが、若いころとは違い、年齢を重ねると様々な制約も出てきます。ぜひ若いうちに多くのことに挑戦していただきたいと思います。

私事ではありますが、我が家には三人の子供がおり、三人とも松江東高校でお世話になりました。今回の末の子の卒業で私も松江東高生の保護者を卒業します。上の子の入学から九年が経ち、私にも東高に多くの思い出があります。もう東高に来ることはないのだなと、何とももの寂しいものを感じますが、保護者としても多くの楽しい経験をさせていただきました。お世話になった先生方を始め、子供たちを支えてくださった皆さんに、この場をお借りして感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、これからの皆さんの活躍を期待しています。みんなに誇れるような未来を創ってってください。

## 卒業生の皆さんへ

36 R 保護者 小堀 純子

皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年前の入学式、とても良い天気で輝いた笑顔でいっぱいでした。式典後、先輩方から部活への勧誘が凄かった事を覚えていきます。

日常の勉強はもちろんですが、課題・定期テスト・模試に部活にと、いつも忙しそうに側に居て「大変そうだなあ」などと思っていました。

部活では試合や遠征で県外まで行かせていただきました。また今年にはインターハイが地元で開催され、プレッシャーも相当だったと思います。親としても各地に足を運び、応援できた事も楽しい思い出です。また、保護者会も盛り上がり、他学年の親御さんとも交流が出来、とても楽しい活動でした。

学校での出来事を家庭でも良く話してくれ、大爆笑する時もありました。その事で学校生活が充実していると感じられ、嬉しく思ったものです。

本日、松江東高を巣立つ訳ですが、選挙権もある立場となり、未成年とは言え大人として見られる事もあります。どうか自覚をもって、それぞれが夢に邁進される事を祈っております。



## 卒業生からの言葉

### かけがえのない宝物

31 R 小 森 百合子

あつという間に卒業という日がやって来ました。高校三年間で一番印象に残っていることは、昨年の夏の書道パフォーマンス甲子園です。最後の大会で、念願の全国大会に出場することができ、本当に嬉しかったです。練習では、いろいろな上手くないこともありましたが、諦めずに仲間と共に支え合って乗り越えてきました。そこから、一人ではできないことも、同じ思いの仲間がいれば、可能性は無限大に広がるということを学ぶことができました。大会で審査員特別賞を頂いた時、仲間と嬉しくて泣きながら喜びあつたことは今でも忘れません。こんな嬉しい思いが来たのも、緒方先生、伊藤先生をはじめ、部員みんな、私達を応援してくださった方々のおかげだと思っています。本当に感謝しています。

この三年間、楽しいこともあり辛いこともありましたが、いつも応援してくださる先生、優しい友達に恵まれて、毎日幸せな日々を送ることができました。先生に勉強を聞きに行ったり、友達とたくさん笑ったり…。何気ない日常も、今思えば大切な思い出です。高校生活でのたくさんの思い出は、私にとつて、決して忘れることのないかけがえのない宝物になりました。

卒業して、四月からは大学生になります。自分のことを応援して、大学へ進学させてくれる両親へ感謝の気持ちでいっぱいです。大学では、高校

生活で学んだことを生かして、色々なことに挑戦したいです。そして、毎日笑顔で、一日一日を大切に過ごしたいと思います。

### 三年間を振り返って

32 R 伊 藤 大 晃

みんなと弁当食べるの楽しかった。休み時間ふざけて遊ぶの楽しかった。数学の時間だけ唯一緊張した。学食のおばちゃん作るご飯美味しかった。球技大会がちで勝ちたかった。テスト期間辛かった。体育のバレー本気でやったの楽しかった。部活の時間憂鬱だった。でも夏冬と全国決まった時は最高に嬉しかった。部室でみんなで愚痴ったり、可愛い子の話したり、大声で歌うの楽しかった。東雲祭で先輩と写真撮れて嬉しかった。練習めっちゃきつかった。めっちゃ怒られた。高一の誕生日に大失態をしてしまいその日の遠足楽しめなかった。

三年間という時間を思い返していると色々な事が蘇ってきました。高校生活はとて早くあつたという間でしたが、たくさんの人との出会いがあり、行事や部活動を通して様々な経験をさせてもらい、最高の思い出を作る事ができ、私に大切なものを与えてくれた場所でした。高校三年間そして三十二期生と共有した時間はこれから先忘れる事のない出来事です。僕をここまで成長させてくださった先生方、バスケット部のみんな、友達、両親、松江東高校に感謝しています。ありがとうございます。

### 頑張り続けること

33 R 山 岡 はるの

私は安来から通学し、同じ中学出身の人がいないこともあり、入学する前は勉強についていけないかや、友達ができるかなどとても不安でした。しかし、入学初日から優しく話しかけてくれる友達や、学校生活についてとても丁寧な説明をしてくださる先生方のおかげで、その不安もすぐになくなりました。三年間の高校生活はとても充実しており、あつという間、だつたなと感じています。

高校の三年間のうち、やはり三年生のときが最も濃い一年だつたと思います。勉強、部活、行事と一番一生懸命行い、私一人だけでなく、周りの友達と一緒に頑張って頑張っているという「團結感」のようなものを感じました。私一人では「もうできない」と諦めてしまうことも、周りをみると頑張り続けている友達がいて、「私も頑張ろう」という気持ちになりました。松江東高校にはそのような友達が多くいて、またそれをアドバイスし、支えてくださる先生方もおり、本当に松江東高校に入学してよかったなと思っています。

もう一つ、私の高校生活を支えてくれたものがあります。それは家族の存在です。いつも私のことを一番に応援してくれた両親へとても感謝しています。

いよいよ、四月からは大学生活が始まります。今は、多少不安もありますが、楽しみのほうが大きいのです。大学生になつた自分を想像すると、とてもわくわくします。もちろん楽しいことばかりではなく、嫌なことや逃げ出したいこともたくさんあると思います。そのようなときは、また「みんなも頑張っている」と思い、逃げずに乗り越えていこうと思います。今まで以上に自分から積極

的に行動し、様々なことへ挑戦していききたいです。  
三年間、ありがとうございます。

## 三年間をふり返って

34 R 上山春花

高校三年間をふり返り、自分が得ることの出来た一番大きなものは「自分と関わり助けてくれる多くの人達」であった、と思っています。

私が特にそれを感じたのは高校三年生の受験期に入ってからでした。私は塾に入っていなかったため、春休みや夏休み、毎週休みの日はほとんど図書館へ通っていました。両親は何も文句も言わず毎日昼食を用意し、送り迎えをしてくれました。私が成績が思うように伸びず落ち込んでいる時や、センター試験前で弱気になっている時、友達はいつも明るい言葉で励ましてくれたし、学校の先生方はどんな時も私たちに本気で向き合ってくれました。三年間勉強してきたことは、もちろん辛い事の方が多かったけれど、自分が多くの人に支えられていることを知るきっかけになったし、「自分もやればここまで出来るんだ」という自信にもなり、より充実した学校生活に繋がったと思っています。これからは今までとは全く違う環境での全く違う生活が待っています。不安もありますが、今まで培ってきた人々との繋がりを大切にしつつ、新しく出会った多くの人々とも積極的に関わっていき、有意義な毎日が過ごせたらいいなと思っています。高校三年間で本当に多くのことを学べ成長することが出来ました。松江東高校に入ってよかったと、卒業を控えた今、心から思います。大学よりもっと先の未来を見据えながらこれからも一日一日を大切に過ごしていきたいです。

## これからに向かって

35 R 松島佳香

あつというまだったと感ずるこの三年間、今振り返ってみると、感謝しなければならぬ場面に沢山出会ったように思います。

私は部活で弓道をしていました。高校二年生の頃にスランプに陥り、三十本中一本も的に中たらない、そんな日もありました。何度も何度も練習しても上手くならず、悩んでいるうちに大会も近づいてきて時間も迫り焦りもでてきて：そんな時助けてくれたのは、部活の仲間でした。射型を見ていてくれたり、改善点を教えてくれたり、色々な場面で支えてくれました。そうして何とかスランプから脱することが出来ました。そのときの的中たった一本の矢は、掛け替えの無いものとなりました。そして仲間の絆の大切さを身にしみて感じました。

日常の中でも感謝すべきことがあります。それは両親です。どんなに仕事で忙しくても毎日お弁当を作ってくれた父、私が悩んでいたり体調を崩したときはいつも気にかけてくれた母、大変であろうことを当たり前のようにしてくれていた両親を本当に尊敬します。今までなかなか照れくさくて言えなかった「いつもありがとうございます」をいつか必ず伝えたいです。

私は将来、食品衛生監視員になるという夢があります。輸入品等の食品を検査し食の安全を守るという、難しく大変だけれど、とてもやりがいのある仕事です。私は今まで支えてくれた方々含め、さまざまな人が安全で安心出来る食品を食べ笑顔でいてもらえる、今までの感謝に対してそんな恩返しをしたいです。

松江東高校での三年間で、勉強だけではなく、

あらゆることへの感謝、喜び、努力などの大切さに気づきました。このことを忘れずにこれからの夢に向かって頑張ります。

## 東高での三年間を通して

36 R 山口恭平

僕たち三十二期生は「殻をやぶる」というのをスローガンにして高校での三年間を過ごしました。

高校二年生のときには東雲祭の学年企画のクラスミュージアムや東京研修といった僕たちの代から新しく取り入れた行事があり、前例が無く不安などもありましたがみんな話し合い、助け合うことでどの行事も充実した思い出深いものとなりました。こうした初めての経験を通して少しずつ自分たちの殻がやぶれてきた気がします。

高校三年生となって迎えた最後の東雲祭の三日間は僕の高校三年間の中で一番楽しかった時間であり、一生の宝になったと思います。

また、僕自身を高校三年間で大きく成長させたのは部活動だと思います。高校入学後ボート部に入部し、数多くの大会や県外遠征、U-19の候補者合宿参加など貴重な経験をしました。中でも島根インターハイは選手宣誓をしたり、大会の準備や片付け、また、選手として、地元でレースをしたりと一生忘れられないような経験をする事ができました。

高校三年間で多くの経験をしましたが、ボートで日本一になるという経験がまだできていません。だから僕は大学でもボートを続けることを決意しました。進学後はインカレで優勝すること、そして二〇二〇年の東京オリンピック出場を目標として東高で得た経験を生かして頑張ります。

# 平成28年度後期部活動成績

## 陸上競技部

### ◆県高校新人戦

|           |    |       |
|-----------|----|-------|
| 男子三〇〇〇MSC | 7位 | 船越 秀太 |
| 男子砲丸投     | 5位 | 平井 統彦 |
| 男子円盤投     | 6位 | 平井 統彦 |
| 男子一六〇〇MR  | 8位 | 森本 千陽 |
| 女子一〇〇MH   | 7位 | 大林里沙子 |
| 女子三段跳     | 4位 | 大林里沙子 |
| 女子四〇〇MR   | 8位 | 川本 侑奈 |
| 女子一六〇〇MR  | 7位 |       |

## 剣道部

### ◆島根県高等学校剣道選手権大会

|       |           |
|-------|-----------|
| 男子団体戦 | 出雲に敗退     |
| 1回戦   |           |
| 女子団体戦 | 3位：シード権獲得 |
| 準々決勝  | 大東に勝利     |
| 準決勝   | 大社に敗退     |
| 女子個人戦 | シード権獲得者   |
| 新山叶芽  | ベスト8      |
| 岸本彩夏  | 岸本悠夏      |
|       | ベスト16     |

◆島根県高校新人剣道大会中国新人兼全国選抜予選大会

## 弓道部

### ◆新人戦兼中国新人大会個人の部県予選

|      |      |
|------|------|
| 男子個人 | 予選敗退 |
| 女子個人 | 予選敗退 |
| 男子団体 | 予選敗退 |
| 女子団体 | 予選敗退 |

◆選手権兼全国選抜大会県予選兼中国新人大会県予選

|      |      |        |     |
|------|------|--------|-----|
| 男子個人 | 松崎弘哉 | 12射10中 | 第4位 |
| 女子個人 | 予選敗退 |        |     |
| 男子団体 | 予選敗退 |        |     |
| 女子団体 | 予選敗退 |        |     |

(中国新人大会出場)

|       |              |
|-------|--------------|
| 男子団体戦 | ベスト8         |
| 2回戦   | 松江東 3対1 平田   |
| 準々決勝  | 松江東 1対3 大社   |
| 女子団体戦 | 第4位          |
| 予選リーグ | ①松江東 2対1 大東  |
|       | ②松江東 1対1 横田  |
| 4位決定戦 | ①松江東 4対0 平田  |
|       | ②松江東 3対1 出雲商 |
| 男子個人戦 | 國光 ベスト16     |

☆女子団体の部は、中国新人剣道大会に出場。

## サッカー部

### ◆県選手権

|     |           |
|-----|-----------|
| 1回戦 | 3-1 吉賀    |
| 2回戦 | 0-5 石見智翠館 |

### ◆新人戦

|       |                  |
|-------|------------------|
| 1回戦   | 1-0 江津・江津工業・浜田商業 |
| 2回戦   | 2-2 開星(PK4-3)    |
| 3回戦   | 0-0 松江商業(PK5-4)  |
| 準決勝   | 0-9 立正大浜南        |
| 3位決定戦 | 1-2 松江南          |
|       | 4位               |

## アーチェリー部

### ◆県秋季大会

|          |          |
|----------|----------|
| 少年女子70mW | 1位 若槻 歩夢 |
|          | 2位 安達 慧  |
|          | 3位 門脇日向子 |
|          | 4位 渡部麻奈美 |
|          | 5位 秦 茉友子 |
| 少年男子70mW | 8位 竹谷 恵寿 |
|          | 1位 峯谷 斐芽 |
|          | 2位 藤原 早和 |
|          | 3位 三好 真令 |
| 少年男子30m  | 1位 今岡 生太 |

予選 36射10中 予選敗退  
 ◆中国新人大会  
 男子個人 松崎弘哉  
 予選 8射6中 予選敗退

◆県身体障害者インドア大会  
2位 原 飛雅  
一般女子18mW  
1位 若槻 歩夢  
2位 渡部麻奈美  
3位 安達 慧

一般男子18mW

8位 竹谷 恵寿  
11位 今岡 生太

◆第41回島根県インドアアーチエリー大会

少年男子  
9位 竹谷 恵寿  
1位 安達 慧

少年女子  
2位 渡部麻奈美  
3位 若槻 歩夢  
5位 今岡 生太  
1位 三好 真令  
2位 藤原 早和  
3位 内田明日華

## 女子バレーボール部

◆県選手権兼全日本バレーボール高等学校選手権大会  
大会県予選大会

1回戦 2-0 大田・出雲西  
2回戦 1-2 松江南

◆県新人戦予選グループ戦

2-0 松江西  
2-0 矢上  
0-2 大社

## 女子バドミントン部

◆県選手権

個人

女子シングルス  
ベスト32 菅井 さや

ベスト32 米田 帆花

女子ダブルス  
ベスト16

菅井 さや・大島早紀子  
ベスト32

田中 瑞希・中村 奎日

◆県新人戦

学校対抗戦 女子一回戦 0対3 出雲

個人

女子シングルス  
ベスト32 大島早紀子

女子ダブルス  
ベスト16

菅井 さや・大島早紀子

## テニス部

◆島根高等学校校テニス新人大会

(個人の部) 松江地区予選

男子 シングルス  
3位 山本 楓馬

5位 北野日佑雅

ベスト16 井上 和道

長谷 健

合計4名予選突破

ダブルス

3位 山本・北野

5位 長谷・井上和

11位 吉田・松本

合計2ペア予選突破

◆島根高等学校校テニス新人大会(個人の部)

男子 シングルス  
ベスト16 山本 楓馬

ベスト32 北野日佑雅

長谷 健

ダブルス  
ベスト8 山本・北野

ベスト16 長谷・井上和

女子 シングルス  
ベスト32 岸本 優香

◆島根高等学校校テニス新人大会(団体の部)

男子 ベスト8(山本・須谷・藤田・吉田・井上和・北野・長谷・宮川・山野)

1回戦 松江東 4-1 益田翔陽

準準決勝 松江東 0-3 松江北

女子 (途中打切)

1回戦 松江東・安来 0-3 松徳学院

◆中国高等学校校テニス新人大会(個人の部)

男子 シングルス  
1回戦

山本 楓馬 3-6(山口・宇部鴻城)

ダブルス  
1回戦

山本・北野 2-6(岡山・岡山一宮)

◆島根高等学校校体育連盟テニス部学年別テニス大会

男子 1年生の部  
2位 長谷 健

ベスト32 長澤 知也

2年生の部  
1位 北野日佑雅

ベスト16 山本 楓馬

ベスト32 吉田 拓生

1年生の部  
ベスト16 岸本 優香

ベスト32 井上 和道

女子 1年生の部  
ベスト16 岸本 優香

ベスト32 井上 和道

女子 1年生の部  
ベスト16 岸本 優香

## ボート部

### ◆国民体育大会

男子ダブルスカル（山口・吉原） 予選敗退

### ◆県新人戦

男子舵手付きクオドルプル

（安部・小堀・柳田・永海・津森） 3位

男子ダブルスカル（高木・田中） 優勝

男子シングルスカルA（吉田） 優勝

男子シングルスカルB（岩成） 4位

男子シングルスカルC（菅沼） 予選敗退

女子舵手付きクオドルプル

（内藤・清水・吉原・田中・浮田） 優勝

女子ダブルスカルA（松原・景山） 3位

女子ダブルスカルB（梶谷・小草） 4位

女子シングルスカルA（林） 2位

女子シングルスカルB（安達） 3位

### ◆選抜中国予選

男子ダブルスカル（高木・田中） 3位

全国選抜ボート選手権大会へ出場決定（3月）

女子舵手付きクオドルプル

（内藤・清水・吉原・浮田・田中） 2位

全国選抜ボート選手権大会へ出場決定（3月）

男子シングルスカルA（吉田） 5位

## ソフトテニス部

### ◆県選手権大会

男子個人

持田大輝・森山 駿ペア

飛 貴之・塩毛和樹ペア

福島拓実・大野 隼ペア

女子個人

藤田友紀乃・畑美咲組

野津あさひ・岩本理沙組

細田愛美・土江理子組

安部涼音・村竹萌子組

### ◆県新人戦

男子個人

持田大輝・森山 駿ペア

飛 貴之・塩毛和樹ペア

福島拓実・大野 隼ペア

男子団体

一回戦 2-1 島根中央

二回戦 0-3 松江工業

女子個人

藤田友紀乃・畑美咲組

野津あさひ・村竹萌子組

細田愛美・土江理子組

女子団体

一回戦 3-0 松江農林

二回戦 1-2 江津

### ◆高校インドア選手権大会

女子個人

藤田友紀乃・畑美咲組

## 卓球部

### ◆県新人大会

男子団体予選一次リーグ（3校リーグ）

松江東 3対1 津和野

松江東 0対3 明誠

リーグ2位トーナメント

松江東 3対0 平田

松江東 2対3 松江高専

男子シングルス 7名参加 二回戦までで敗退

女子団体 予選一次リーグ（5校リーグ）

松江東 0対3 平田

松江東 2対3 出雲西

松江東 2対3 津和野

松江東 1対3 出雲

リーグ4・5位トーナメント

松江東 3対0 情報科学

松江東 2対3 松江高専

女子シングルス 4名参加 二回戦までで敗退

## バスケットボール部

### ◆県選手権

男子 二位

2回戦 松江東 125-27 大社

準々決勝 松江東 119-29 矢上

準決勝 松江東 86-52 松江工業

決勝 松江東 67-79 松江西

ベスト5賞 伊藤 大晃

女子 ベスト8

2 回戦 松江東 64―47 出雲

準々決勝 松江東 48―80 松江商業

◆県新人戦

男子 二位

2 回戦 松江東 129―12 安来

準々決勝 松江東 93―63 浜田

準決勝 松江東 87―60 開星

決勝 松江東 61―81 松江西

ベスト5賞 藤原 拓磨

女子 二位

2 回戦 松江東 78―51 益田翔陽

準々決勝 松江東 81―60 松江南

準決勝 松江東 83―56 明誠

決勝 松江東 51―52 松江商業

ベスト5賞 足立 瑠依

◆中国新人戦

男子

1 回戦 松江東 56―53 宇部工業

準々決勝 大雪のため大会中止

女子

1 回戦 松江東 90―67 米子南

準々決勝 大雪のため大会中止

ハンドボール部

◆島根県高等学校ハンドボール新人大会兼

山陰選抜県予選会

男子

1 回戦 松江東 17―10 松江南

吹奏楽部

◆東高東雲祭 文化の部にて演奏

9月1日(木) 東高体育館

◆第7回バスまつりにて オープニング演奏

9月19日(祝) くまびぎメッセ

◆リトル・マルデイグラ パレード演奏

10月9日(日) カラコロ工房・広場く県庁前

◆第37回城東文化祭 演奏

10月29日(土) 城東公民館(母衣小学校)

◆デイサービスわかかさ 訪問演奏

11月5日(土) 朝酌町・デイサービスわかかさ

◆第40回全日本アンサンブルコンテスト島根県大会

12月24日(土) 出雲市民会館

木管3重奏 金賞受賞

金管6重奏 金賞受賞

◆第11回松江フレンドリーブラスコンサート 出演

2月5日(日) 島根県民会館

(松江北高校・開星高校との合同演奏)

◆しまねシンフォネット高校オーケストラ第17回

定期演奏会 出演

3月19日(日) プラパホール

野球部

◆島根県高等学校秋季野球大会

1 回戦 6―8 隠岐

2 回戦 松江東 19―16 松江高専

決勝 松江東 11―29 江津 \*第2位

女子リーグ

第1戦 松江東 12―7 松江南

第2戦 松江東 7―9 松江市女

第3戦 松江東 14―9 江津 \*優勝

◆全国高等学校ハンドボール選抜大会島根県予選

男子

1 回戦 松江東 19―20 松江工業

女子リーグ

第1戦 松江東 9―17 松江市女

第2戦 松江東 17―7 松江南

第3戦 松江東 12―12 江津 \*第3位

◆中国高等学校ハンドボール新人大会

女子予選リーグ

第1戦 松江東 13―5 倉吉総合

第2戦 松江東 12―19 徳山

ボクシング

◆中国高等学校ボクシング新人大会

バンタム級 2位 渡部 夏志

高文連 音楽部門

◆第55回島根県高等学校音楽コンクール

9月14日(水) グラントワ

声楽部門 金賞 永見 樹

ピアノ部門 金賞 原 詩衣乃(第一位)

- 木管楽器部門
- 銀賞 地阪 幸恵  
銀賞 森脇 鈴  
金賞 片寄 綾乃  
銀賞 三上 里穂  
銀賞 川上 遥  
銀賞 岩谷 美陽  
銀賞 門脇 菜帆  
銀賞 石橋 美月

## 文化創造部

### 〔放送部門〕

- ◆平成28年度島根県児童生徒学芸顕彰  
(第一期受賞) 山口諒太郎

- ◆第20回県高等学校総合文化祭  
オーディオピクチャー部門 優良  
(中国地区大会進出)

- ビデオメッセージ部門 優秀賞  
(次年度全国総合文化祭進出)

### 朗読部門

- 優良 竹澤 里那 (中国地区大会進出)  
優良 野津 嘉子 (中国地区大会進出)

- ◆第2回中国地区高等学校放送コンテスト  
オーディオピクチャー部門 出場  
朗読部門 優良 竹澤里那  
優良 野津嘉子

### 〔演劇部門〕

- ◆松江地区演劇発表会  
「ヒトリボッチ?」 楽静作 優良賞

## 書道部

- ◆平成二十九年全国高等学校総合文化祭出品作  
品に選出 二年 橘 夏希

- ◆第四十九回島根県高校書道展  
奨励賞 一年 三好 亜美

- ◆全国高校書初め展出品  
三年 杉原 千晶

## 美術部

- ◆第49回県高校美術展

入選 絵画の部 7名

- 笹山 真鈴 梶谷由羽菜 藤原沙弥加  
石原 里菜 後藤 育子 高木 茉緒  
舛岡 葵

- ◆第28回読書感想画コンクール

- 優良賞 梶谷由羽菜 後藤 育子 松田 りの

## JRC部

- ◆松ろう祭(松江ろう学校の文化祭)への参加・  
お手伝い及び・松江ろう学校の生徒さんによる  
手話講座での交流

- ◆第7回赤十字救急法競技大会参加  
(県内13チーム中3位)

- ◆日赤主催の国際交流事業の一環  
生徒一名が「平成二十八年度青少年赤十字国際  
交流集会 (JRC/RCY International Meeting.)

“Tokyo 2016”に島根県代表として参加

- ◆島根県高等学校青少年赤十字メンバー秋季協議  
会参加  
研究発表、最優秀賞受賞

## 弦楽部

- ◆しまねシンフォネット高校オーケストラ  
第十七回定期演奏会

3月19日(於 プラバホール)

## ESS部

- ◆島根県高校生英語セミナーCHESS 参加  
(大田市)

- ◆第50回ヘルンをたたえる青少年英語スピーチコ  
ンテスト

シニアの部 八雲会奨励賞 山田 素子





# P T A 会務報告

平成28年10月1日～  
平成29年3月31日

## 1、PTA講演会

〔11月19日(土)〕

〔会場〕松江東高校 体育館

〔講演〕講師 井田典子 氏 (相模友の会会員)

演題 「モノと時間と心の整理」(参加人数 120人)

## 2、学年PTA(1、2年生)

〔11月19日(土)〕

○ 1年生〔会場〕視聴覚室

〔内容〕コース選択説明会 (参加人数 105人)

○ 2年生〔会場〕地学教室

〔内容〕進路に関する説明会(参加人数 66人)

## 3、第2回役員会

〔2月16日(木)〕

〔議事〕1、学校近況報告

2、平成28年度会務報告・委員会活動報告

3、平成28年度PTA予算の執行状況報告

4、平成29年度PTA事業予定

(予定)

## 4、進路研修会

〔3月11日(土)〕

〔場所〕視聴覚室

〔内容〕①1、2年生の現状

②進学マネープラン説明会 奨学金、教育ローン等についての説明



学年PTA(1年)



学年PTA(2年)



P T A 講演会

# 編集後記

三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。  
在校生の皆様、進級おめでとうございます。

三年間で得たものは何ですか？  
今、頑張っている事はありますか？  
私の高校時代といえば、部活、部活の日々でしたが、今、部活の仲間は一生涯の友となり、部活での日々は、とことん頑張った！という励みになっています。

たった三年間の高校生活ですが何かひとつ思いっきり、打ち込めるものに出合える事を願います。  
この春、何か始めてみませんか？

広報委員 村岡 智美

早いもので長女は卒業を迎え、二女は一年生を終えようとしています。そんな中、広報委員の仕事に携わらせて頂いたこと、嬉しく思っています。ありがとうございます。

長女に東高のどこが好き？ときくと「人と人の距離が近い。」と答えました。沢山の方に温かく支えて頂いたからこそその言葉です。最後に、発刊にあたり、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

広報委員 波多野悦子

娘は東高へ入学してはや一年が経とうとしています。

不安と期待の高校生活、すぎてしまうとあつという間でした。

娘の姿を見ているとどうしても自分の高校生時代と重ねて思い出します。

私は勉強よりも部活、クラスの友人よりも部活の友人と部活の中心の高校時代でした。

その結果、部活の延長線上で、今現在も趣味としてそれを続けています。

高校時代の経験やつながりは、その時期だけのものにとどまらず生涯続くものだと思います。

喜怒哀楽を共にする仲間の存在を大切に過ごして欲しいと思います。

広報委員 小山 和広

## 【広報委員】

入江 真志夫 岸本 美智子  
沖田 博司 村岡 智美  
波多野 悦子 小山 和広





〈表紙の絵〉 13 R 舛岡 葵

〈題 字〉

P T A 会報 森脇 哲朗 (旧本校教員)  
嵩山 上田久美子 (十三期生保護者)